



市政研究会 大西 克美 議員

1 市長の施政方針について

質問1(1) 来年度は2期7年目に入る。今までの実績と7年目の決意は。

答弁1(1) 「みんなで築く鈴鹿夢プラン」を作り安心安全なまちづくりの実現に向け、防災対策、市道整備、環境整備、少子化対策などのさまざまな課題に力を注いできた。今後も市民の生命、財産を守っていくことが使命と考へ厳しい財政状況下であっても本市の強みを活かした施策に資源を集中し推進を図っていく。

質問1(2) 副市長2人制の成果は。

答弁1(2) 副市長2人制により市長を支えるマネジメ

ント機能が強化され、役割分担をすることにより各施策へのきめ細やかな指示と対応が図られている。

質問1(3) 平成21年度予算に関してもっと緊縮した予算を組めなかったのか。今後の状況をどのようにとらえ、不況対策等をどのように考えているのか。

答弁1(3) 予算編成にあたっては大幅な事業の見直しによる事業の先送りなどで歳出の削減に努めたが福祉経費等手を休めることのできない経費もあり、ある程度の規模は必要と考える。先行きは不透明であり将来を予測することは難しいが、庁内に「鈴鹿市緊急経済対策本部」を設置し、市民の生活の安定化のため、施策を検討推進する。また不況対策として市民のニーズの把握に努め各種支援に取り組む。



あくていぶ21 野間 芳実 議員

1 平成21年度施政方針について

- (1) 経済対策について
- (2) 緊急医療体制について
- (3) 基盤整備について
- (4) 行財政改革について

質問1(1) 緊急経済対策としての、生活者支援、中小企業支援の取り組みは。市独自の施策はあるか。

答弁1(1) 生活者支援として各種相談窓口の強化、中小企業支援として経営者相談窓口の設置などをし、国や県の制度を補完するような対策を実施している。

質問1(2) 市民病院を持たない本市では医師の確保や医療スタッフを充実させるための施策が必要では。

答弁1(2) 医師の確保については、医療機関と連携

し大学へ要望しており、今後も強力に進めたい。

質問1(3) 新名神につながる鈴鹿亀山道路の事業化や、市内から東名阪鈴鹿ICへの県道神戸長沢線の拡幅を早急に。汲川原橋徳田線の4車線化の進捗は。

答弁1(3) 鈴鹿亀山道路は早期事業化に向けて関係機関に対し協力や要望を進めていく。県道神戸長沢線は現在事業中であり、整備が進むと汲川原橋徳田線の重要度が増してくる。早期完成を図りたい。

質問1(4) 限られた財源を有効に活用するには、公社や民間活力の活用も必要。行財政改革を進めるには、市長のトップダウン方式による英断が必要では。

答弁1(4) 厳しさを増すことが予想される財政状況の中、今まで以上に私のリーダーシップと職員の強固な改革意識と実行力で行財政改革を推し進めたい。



すずか倶楽部 原田 勝二 議員

1 市民の暮らしを守る市政運営を問う

—私達は未曾有の経済危機に遭遇しています。国は、生活支援・雇用対策・中小企業支援・地域活性化等・景気回復につき各種の政策を打ち出しています。—

質問1(1) 未曾有の経済危機に対し、国や県の政策や施策に呼応した鈴鹿市の施策につき、これまでの経過、現況、今後の取り組みを問う。

答弁1(1) 平成20年12月18日「鈴鹿市緊急経済対策会議」設置、平成21年1月26日「鈴鹿市緊急経済対策本部」に改組し各種施策を推進している。具体的には、中小企業支援の緊急保証制度の相談窓口で413件認

定、雇用調整助成金や中小企業緊急雇用安定助成金のPRと企業訪問の実施、生活相談窓口の強化にて生活相談受理190件、外国人相談窓口の受理349件、解雇による住居対策は市営住宅8戸の提供12件の入居、市の独自施策の緊急雇用対策で25名採用。今後とも国や県からの新たな政策に対し迅速に対応していく。

質問1(2) 仮称「鈴鹿市異業種合同景気回復研究会」の緊急提言の必要性を問う。

答弁1(2) 現存する「鈴鹿市産業団体交流会」の活用、組織の進め方を再考することも一案と考える。

